

## 令和3年度 国内研修・国際交流事業 趣旨

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、学校を取り巻く環境に大きな変化をもたらしました。それにより、子供たちの「学びの歩み」にも当初は影響が及びましたが、ICT教育の環境整備が飛躍的に進歩したことや、休校などにより行き場をなくした子供たちの受け入れ体制も、PTAを中心とした家庭・学校・地域による支援の輪が広がることにより解消へと向かっています。

学校で学び、給食を食べ、共に遊ぶ。そんなありふれた「日常」が、コロナ禍で一変しました。対面や移動を避ける生活様式は、人間が本来持つ社会的なつながりや、ひとりで過ごす空間のあり方に変化をもたらしました。しかし一方でコロナ禍において大きな気づきもありました。それは感染拡大を受け繰り返される緊急事態宣言の中、法的拘束力が無いにも関わらず他者を思いやり自らを律し、感染の抑制に協力をする日本人の精神が、この国の先人によって進められてきた「教育」によって育まれたものであり、私たちが世界に誇るべきものであるということです。

感染防止の基本は「身体的、物理的距離の確保」です。この防止策は子どもたちの心豊かな成長に必要な自然体験活動や様々な人々との交流活動といった、多様な学びを得る機会を制限することにもつながっており、子供たちの自ら学ぼうとする意欲の受皿が必要です。

私たち公益社団法人日本PTA全国協議会は、これまで「国際社会で活躍できる次代を担う人材を育成」することを事業目的に掲げ子供を対象とする研修事業を実施してきました。

今事業は独立行政法人国立青少年教育振興機構と連携協力し開催いたします。「伊予の小京都」と呼ばれる水郷「大洲」の深い歴史と伝統・文化、豊かな自然環境に触れ、全国より集まった参加者との時間共有の中で、豊かな人間性と新たな仲間との「絆」を育むことで、共にこれからの時代を切り拓いて行けるリーダーシップを備えた人材の育成を国内研修・国際交流事業を通じて目指して参ります。

### ○ 研修のテーマ

- ・ 地域の伝統・文化・歴史・豊かな自然に触れ学ぶことで、それぞれの郷土と我が国に誇りを持つことへの一歩となる研修の実施
- ・ ICTを活用した新しい形の研修プログラムの構築
- ・ 未来を見据え、他者と共に次代を切り開いて行ける人材の育成